

モスの心ができるまで

～ 創業者・櫻田慧の物語～



櫻田慧(さとし)という名前を聞いたことがありますか？モスの創業者であり、モスの心の原点と呼ぶべき人物です。

櫻田は、岩手県大船渡市の高級料亭に10人兄弟の末っ子として生まれ、厳しく育てられました。幼い頃に母から教えられたという逸話に「たらいの水」があり、それはこんな話でした。「人生は『たらいの水』だよ。たらいの水は自分のほうにかき寄せると逃げてしまう。外に向かって押し出すとこっちに戻ってくるだろう？人との関係もそれと同じだよ。」

人に尽くす大切さを教えられた櫻田少年でしたが、青年時代は挫折の連続でした。最初の大学受験で医学部に挑戦するも失敗。翌年は合格したものの、今度は学費を出せず断念。結局、経済学部へ進み、卒業後は空前の株式ブームで勢いのあった証券会社に就職します。入社3年目にはロサンゼルス支店に抜擢され、念願のアメリカ行きを実現しましたが、不運にも証券不況のあおりを受けて無念の帰国。その後、皮革問屋へと転職するも、今度は価値観を共有できない組織の辛さを味わいました。

まさに辛抱の時代でしたが、後の運命を左右する体験もありました。在米時に訪れたハンバーガーショップ、トミーズとの出会いです。外見はみすぼらしく、お世辞にも立派とは言えないお店でしたが、味だけで勝負し、いつも行列が絶えませんでした。気がつくと、櫻田も常連のひとりとなっていました。また、トミーズとの出会い以外にも、この時期に櫻田は大きな財産を得ています。共にモスバーガーを創業する仲間、吉野と渡邊です。3人は、つねにビジネスの夢や理想の会社について語りあい、モスバーガーの名前である、MOSもこの頃に3人で決められました。Mountain・Ocean・Sunの頭文字をとった言葉で、大自然をこよなく愛する3人にぴったりのネーミングでした。「フードビジネスをやろう」という3人の考えが一致したことをきっかけに、櫻田は吉野と渡邊をアメリカに連れて行き、連日ハンバーガーショップ巡りをしました。そして遂にトミーズを訪れた時、本来は肉嫌いであるはずの渡邊がこう言いました。「うまい！こんなにうまいハンバーガーがあるのか！」その瞬間、3人の心はハンバーガーショップで固まっていました。

しかし、次は資金問題が櫻田の前に立ちはだかります。銀行に融資を申し込みましたが、相手の態度は屈辱的なものでした。「今に見ている。」櫻田は心の中で叫びました。一方、友人・知人は快く櫻田にお金を出してくれました。ある先輩は「君なら石にかじりついてでも頑張るに違いない。」と激励しました。その言葉に、櫻田はとても勇気づけられました。

その後、ハンバーガーを作るノウハウも設備もない3人はトミーズで修行させてもらうために渡米。無償で働きたいという3人をトミーズも快く受け入れ、惜しみなくアドバイスを与えてくれました。商品開発に対しても櫻田の情熱はすさまじく、資金の大半を使ってしまいました。そんな状況でモスバーガーの第1号店は誕生しました。たった2.8坪のお店でした。

開店以来、櫻田たちは必死に働きました。半年後には、黒かった櫻田の髪は真っ白になりました。自らの姿を振り返る余裕もなく、汗だくの姿をお客さまに気づかわれたりもしました。また、売り上げが伸びずにあせり、目先の利益を追いそうになることもありました。そんな時、かつての友人や知人は櫻田を諭し、まごころや感謝の大切さに気づかせてくれました。

早朝の掃除やお客さまとの交流で地域に馴染み始めた矢先、遂に櫻田は倒れました。原因は、ぎっくり腰。狭くて暑いキッチンに立ち続けた代償でした。さらに苦難は続きます。500万円もの大金を貸してくれた先輩が事業で失敗したのです。「恩人を見殺しにはできない。」と櫻田は、当時住んでいた家を売り、500万円に利子を付けて返しました。狭いアパートに移った櫻田一家の生活は一変。「パパ頑張ってるね、また大きな家に住めるよね。」息子の言葉が、櫻田の胸を締め付けました。

ところが、不思議なことが起こりました。恩人に借金を返してから、業績がみるみる良くなったのです。売上げは日ごとに上がり、2号店は櫻田の予想をはるかに超える人気を得ました。借金の完済も見えてきました。それはまさに、母から教わった「たらいの水」のようでした。挫折や苦難を乗り越えながら、大切な人たちに支えられて誕生したモスバーガー。創業者・櫻田慧の体験は、モスの心となり、今も引き継がれています。